

民進党代表選挙

代表選挙管理委員会の公告、各候補の推薦人名簿などの各種情報は、民進党ウェブサイトにもまとめてあります。



蓮 舫 候補

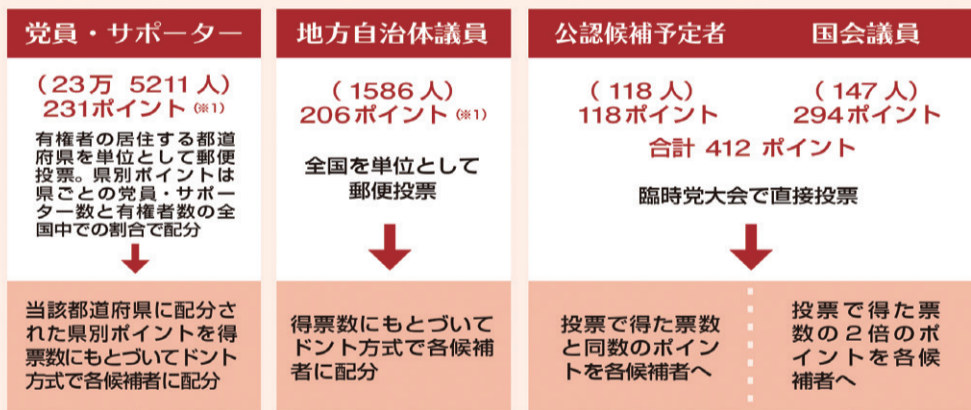


前原 誠司 候補



玉木 雄一郎 候補

投票の流れ



各ポイント数を集計して代表を決定

● 決選投票の場合、国会議員各2ポイント、公認候補予定者各1ポイントの直接投票をもって、その獲得ポイント数の多い候補者を当選者とする。立候補者が1人の場合、選挙は実施せず、臨時党大会に報告し、その承認をもって当選者を確定させる。

※1 (国会議員ポイント + 公認候補予定者ポイント) × $\frac{1}{2}$

ただし、党員・サポーター分は都道府県別有権者数にもとづいて配分ポイントを出す際に切り上げ計算をするため、合計数は地方自治体議員への配分ポイントより多くなっている。

代表選挙の有権者

- 党員またはサポーター
直近の定時登録名簿の中から代表選挙規則に定める要件を満たした者。
- 地方自治体議員党員および衆参公認候補予定者党員
8月26日時点で党籍を有する地方自治体議員、同時点で常任幹事会により決定または承認されている国政選挙の公認候補予定者。
- 国会議員党員
8月26日時点で政党助成法にもとづき党に所属している者。

ドント方式とは

各候補の総得票数を1、2、3、...と整数で割っていき、得られた「商」の大きい順にポイントを分配する方式です。

例 候補者が3人で、割り当てポイントが7の県の場合のポイント配分

候補者	A	B	C
総得票数	1000	650	350
÷ 1	① 1000	② 650	④ 350
÷ 2	③ 500	⑥ 325	175
÷ 3	⑤ 333.3	216.7	116.7
÷ 4	⑦ 250	162.5	87.5
獲得ポイント	4	2	1

代表選挙の仕組み

代表選候補者討論会 (調整中)

日付	曜日	開始時刻	都道府県	市・区	候補者討論会会場
9/3	土	11:00	大阪	大阪市	新阪急ホテル
9/4	日	15:30	福岡	久留米市	ハイネスホテル久留米
9/5	月	17:30	岡山	岡山市	ホテルグランヴィア岡山
9/6	火	17:00	香川	高松市	ホテルクレメント高松
9/7	水	17:30	長野	長野市	ホテルメルパルク長野
9/8	木	14:30	静岡	静岡市	ホテルアソシア静岡
9/9	金	17:30	宮城	仙台市	仙台サンプラザホテル
9/10	土	15:00	北海道	札幌市	札幌グランドホテル
9/11	日	13:45	埼玉県	さいたま市	浦和ロイヤルパインズホテル
9/11	日	17:30	東京都	豊島区	ホテルベルクラシック東京

※街頭演説日程については民進党ウェブサイトをご覧ください。

立候補者は3人
党員・サポーターの郵便投票を実施

民進党初の代表選挙が2日告示され、蓮舫、前原誠司、玉木雄一郎の各氏が立候補した。選挙運動期間は15日までの14日間。新代表は15日の臨時党大会で選出される。党員・サポーター、自治体議員は郵便投票。国会議員、国政選挙公認候補予定者は臨時党大会の会場で投票する。

2016臨時党大会
(党代表を選出)

開催日時・会場
①日時 2016年9月15日(木)
午後1時開会
②会場 ザ・プリンスパークタワー東京
東京都港区芝公園4-8-1
※インターネットでライブ中継を予定

「新世代」の民進党

蓮舫

れん
ほう

1967年生まれ、
青山学院大学法学部卒業。
報道キャスターを経て、
2004年から参議院当選3回。
元行政刷新担当大臣。
19歳男女双子のママ。

野党の存在価値は、政権担当能力を示し、国民に選択肢を提供すること。私たちに政策があり、それを立案・実現できる人財がいる。これに信頼が加われば、政権の選択肢になれる。初の女性リーダーとして、「ガラスの天井」を打ち破り、全員の力を結集することで新世代の民進党をつくる。そして、批判から提案・創造に転換することで政権を奪取する。

「新世代」の民進党をつくる3本柱

- ① 既得権や癒着と闘う改革政党として、対案を提示し政権担当能力を示す。
- ② 全員が力を発揮できる体制を構築する。また地方組織を含め、オープンかつ徹底した議論の上、一致結束した行動をとる。
- ③ 個別の政策を担当する政務調査会とは別に、政策分野ごとの調査会を設置し、政権政策を再構築・深化させる。

「安心の好循環社会」

我が国の最大の政治課題は「人口減少」であり、必要なのは「脱・昭和」の経済政策。教育・雇用・老後などの将来不安を取り除き、人生のすべてのライフステージを安心して過ごせる生活支援を行うこと。安心することで消費が喚起され、実需が生まれ、経済成長が実現できる「安心の好循環社会」をつくる。

「脱・昭和」の経済政策

人生の全ライフステージを安心して過ごせる「生活支援」

【教育】 就学前教育を含め、教育の機会と質を保障

- 就学前教育の無償化と質の向上、給付型奨学金の創設を実現する。
- 児童扶養手当の拡充などで子どもの貧困を根絶する。
- 保育士や幼稚園教諭などの待遇改善を実現する。

【雇用】 「人」へのセーフティーネットの充実

- 同一価値労働同一賃金を実現する。
- 職業訓練とセーフティーネットを充実する。
- 家庭と仕事の両立や女性の社会進出促進のため、長時間労働を見直す。

【社会保障】 年金・医療・介護をしっかり守る

- 医療・介護サービスの充実と、現場職員の処遇改善で、リーディング産業へ。
- 給付付税額控除の導入や持続可能な年金制度の再構築などで、基礎的な所得を確保する。
- 年金積立金について、安全な運用に切り替える。

【財政・税制改革】

- 2020年度プライマリー黒字化達成で、持続可能な財政構造を実現する。
- 配偶者控除を見直すとともに、女性の働き方に中立的な社会保険料負担を目指す。
- 法人税減税の効果を踏まえて、ありかたを見直す。
- 所得税の累進性を強化するとともに、金融所得への課税を強化する。
- 消費税引き上げは、社会保障充実と身を切る改革・行革の実行を前提にする。

政治改革・行政改革

- 税の使い方をチェックするプロセスに国民が直接関われる仕組みを検討する。
- 「行政事業レビュー」を法定化しさらに深化させ、国会でも取り組みを行う。
- 各省にまたがる評価関連部局の再編・整理を行い、集中的な行革を行う。
- ビッグデータなどの活用で、予算の執行状況をリアルタイムで把握する。
- 国民との約束である国会議員定数の削減を実現する。

女性政策

- 仕事と育児の両立を推進しつつ、女性の総合的な自立支援にも取り組む。
- 選択的夫婦別姓を可能とする法律を制定する。
- 政治家が男女同数となることを目指す。
- DV防止法やストーカー規制法を改正する。

地域主権・再生

- 地域の選択を尊重しながら、基礎自治体を強化し道州制への移行を目指す。
- 一括交付金を復活させ、地方交付税制度、地方財政制度を見直す。
- 農業者戸別所得補償制度について、法制化し恒久的な制度とする。
- 経済連携協定による自由貿易を推進しつつ、国益の観点から判断する。今回のTPP協定案は、日本の雇用・経済にメリットが少なく、情報公開も不十分であり、反対する。

エネルギー政策

- 2030年代原発ゼロを実現するため、省エネを徹底

し、小規模分散電源や自然エネルギーへのシフトを推進するとともに、工程表を作成する。

- 40年運転制限を厳格に運用する、新增設は認めない、安全確認を得ていないものは再稼働しない、の原則を徹底する。また、責任ある避難計画がなければ原発を再稼働すべきではない。

被災地に寄り添った復興

- 東日本大震災の被災者に寄り添いながら、復興・再生に全力で取り組む。
- 福島原子力災害は、国の社会的責任を認め、復興と再生を強力に推進する。原賠制度について国と事業者の責任分担のあり方などの点を踏まえ、検証、見直しに取り組む。
- 熊本地震災害は、被災者生活支援制度の拡充などで、早急な復旧・復興へ。

外交・安全保障

- 日米同盟を深化。アジア太平洋地域との共生を促進する戦略的な外交を展開。
- 「近くは現実的に、遠くは抑制的に」、国の守りを固める。「人道支援は積極的に」、国際平和に貢献。
- 安全保障法制については、憲法違反など問題のある部分を白紙化する。
- 沖縄との対話を重ねながら、米軍再編に関する日米合意を着実に実施するとともに、日米地位協定の改定を提起し、関係住民の負担軽減に全力をあげる。

憲法

- 「国民主権」「基本的人権の尊重」「平和主義」の理念を堅持しつつ、「新しい人権」や「統治機構改革」などの時代の変化に対応した憲法を国民とともに構想する。

立ち向かう。提案する。
「蓮舫路線」に期待してください。



2016 民進党代表選挙 候補者

玉木雄一郎

「こども国債」で 子育て・教育予算を 倍増させる。

子育て・教育予算が 20年で100兆円増える

日本はオリンピック後、いまだかつて経験したことがない高齢化社会に突入します。そこで考えなくてはならないのは、「何が人を幸せにするのか」です。「人々が支え合って穏やかに暮らすことができる社会」をつくるための後押しができる政策は、昭和の高度成長期の政策とは違うと思うのです。

また、同時にどんな困難な家庭環境で生まれても子供達は自分の未来に希望を感じる、そういう社会でなくてはなりません。子供の貧困をなくす予算は大きなハコモノや道路をつくるよりも重要だと思っています。

財政法を見直して「こども国債」(仮称)を年5兆円発行すれば、子育て・教育予算が倍増します。特に「教育・子育ての完全無償化」を実現させたい。これまでの高齢者型の社会保障を、次世代を担う子どもや若者にも重点を置いた「全世代型」に転換します。

一方で、年金・医療・介護といった「人生後半の社会保障」は、借金ではなく税や保険料を充てます。安易な増税に頼りません。時代に合わなくなった国の予算や決算の仕組みを改革し、国民負担を公平化する。徹底した合理化で、未来にツケを残さない財政を取り戻します。

このほかにも、

責任ある外交・安全保障政策 「リベラル保守政党」の確立

など、まだまだ言いたいことは山ほどあります。くわしくはツイッター、ホームページをご覧ください。

玉木 雄一郎 (たまきゆういちろう)

昭和44年5月1日生まれ 47歳 酉年 O型

■出身地 香川県大川郡寒川町(現さぬき市)
 ■家族 祖母、両親、妻、息子(高校生)の3世代同居
 ■座右の銘 一所懸命 ■趣味 カラオケ(十八番は「あずき2号」)、マラソン
 兼業農家の長男として、香川県の農村で生まれる。県立高松高校を卒業後、東京大学法学部へ進学。陸上部で10種競技に打ち込む。1993年大蔵省(現財務省)入省。留学先の米ハーバード大学大学院で政治学を学び、2大政党の必要性を痛感。05年、投票日の1ヶ月前に退職し、衆院選に香川2区から挑戦するも、落選。4年間の浪人生活を経て、09年初当選。以来、3期続けて小選挙区で当選中。

日本の経済構造を根っこから 変える「攻めの経済政策」

都市の快適さと田園の安らぎは両立できます。それが「21世紀の田園都市国家構想」です。農業の6次産業化*をもっと進める。農村に再生可能エネルギーを普及させる。地域金融のシステムの整備する。地方空港や港を整備して海外からの投資や交流を呼び込む。できることはたくさんあります。私は「田園からの産業革命」を起こせると本気で思っています。

*6次産業化…農業や水産業などの第1次産業が、食品加工・流通販売にも業務展開している経営形態のこと。

また、人工知能(AI)の発達や第4次産業革命を踏まえた「攻めの経済政策」で、20年間続いてきた経済の停滞に終止符を打ちます。

①産業政策を「大企業中心から中小企業・ベンチャー企業中心へ」、②国際戦略を「貿易重視から投資重視へ」、③経済システムを「中央集権型から地域循環型へ」変革させるなど、経済構造を根底から転換します。

提案型の憲法論議を

『国民の権利を守り、国家権力の暴走に歯止めをかける』という立憲主義に立ち返るべきです。自民党改憲案のように基本的人権や国民主権の理念を軽視し、立憲主義に反する改憲には反対です。自衛隊に外国での武力行使を認める改憲もダメです。

日本国憲法の平和主義を守らねばなりません。

一方で憲法裁判所の設置、衆参両院の関係、地方自治のあり方など、時代に即した新たな権利について、タブーを恐れずに議論を深めたい。そのために国民的議論のたたき台を示します。

玉木雄一郎とつながる



@tamakiyuichiro



facebook.com/tamakiyuichiro



www.tamakinet.jp